

平成22年度宇都宮市学習と生活についてのアンケート（宇都宮市立清原北小学校5年）

■分析と今後の指導上の工夫

- ・ 「勉強が好きですか」の問いに対して肯定割合が70%を超えており、ほぼ市の平均と同じである。教科ごとにその教科が好きかを問う設問では、体育以外のすべての教科で市の平均を上回っており学習への意欲が高いことがわかる。
- ・ 平日の家庭での学習時間は、大きく2つのグループに分かれている。「10分ぐらい」「30分ぐらい」が、それぞれ21.4%、「1時間ぐらい」が21.4%、「2時間以上」が35.6%である。宇都宮市では、高学年の児童は1時間の家庭学習を行うことが宇都宮市学校教育スタンダードにうたわれている。よくやる児童はやっているが、勉強していない児童も40%以上いるというのは問題である。学習時間が不足しており、家庭学習への意欲付けと家庭との連携を図っていきたい。さらに、休日の家庭学習も30分以下の児童が半数を超えており、1日1時間の学習を意識化させていきたい。
- ・ 学習に対する気持ちや態度については、「学習に対して自分から進んで取り組んでいる」「将来の仕事についての希望をもって学習している」の問いに対していずれも肯定が、8割近くで市の平均と同じであり、全員が「学習していろいろできるようになることはうれしい」と肯定しており、「自分の力をできるだけ伸ばしたい」「学習して身に付けたことは将来の仕事や生活の中で役立つ」と90%以上の児童が思っており、児童の前向きの気持ちを生かした指導と支援を進めていきたい。
- ・ 学習の仕方については、「授業で習ったことを、自分なりにノートなどにまとめている」という児童は10%以上市の平均より下回っている反面、「調べたことをコンピューターを使ってまとめることができる」という設問の肯定割合は市の平均より30%近く高くなっている。今後、ノート指導を工夫すると同時に、コンピューターをより多く使える機会のある本校のよさを生かしていきたい。
- ・ 家庭での学習では、「その日のめあてを決めて、家庭学習に取り組んでいる」という児童が市の平均より10%以上多く、前向きに家庭学習に取り組んでいることがわかる。「前の日のうちに、次の日の学校の用意をしている」児童は市の平均より10%近く低く、忘れ物につながっていると考えられる。
- ・ 読書については、平日に1時間以上読む子が40%以上いる一方、ほとんど読まない子も30%近くいる。さらに、休みの日にも1時間以上が40%以上で、ほとんど読まない子も20%以上いて2極化している。よく読む児童のよさを伝えて、読まない児童にも読書の楽しさを伝えられるよう指導を工夫していきたい。
- ・ 「1日にどれくらいテレビ、ビデオ、DVDを見ていますか」という問いに「2時間以上」の子が平日、休日とも約40%いる。「1日にどれくらいテレビゲームやパソコンをしていますか。」の問いに、平日も「3時間以上」という児童がおり、休日になると、その割合はさらに増える。前述した家庭学習の時間とも関連することが考えられ、健康面からも問題があると思われる。家庭と連携して指導をしていきたい。
- ・ 起きる時間、寝る時間、朝食をとっているかなどの生活習慣もほとんどの児童は問題ない。また、「今の生活や将来に悩みや不安があるか」の問いにあると答えた児童は、市の平均より少なかったが、数名の児童は「ある」と答えている。教育相談その他の機会を捉えて、児童の内面に迫るように心がけていきたい。